

リニア中間駅周辺の豊かな地域環境と融合した新たなワークスタイルの創出検討会（第2回）

議事要旨

日時：令和3年1月28日（木）10:00-12:00

場所：（WEB 開催）

1. 議事

開会后、以下の議事について調査審議

- (1) テレワーク等に関するニーズ調査結果について
 - 1) ワーカー・企業向けアンケート（抜粋）
 - 2) 企業ヒアリング結果
- (2) その他調査結果について
 - 1) 先進事例調査結果
 - 2) プレ実証実験結果
- (3) SMRの形成及び効果の広域的拡大の促進に関する取組について
 - 1) 藤野・津久井・相模湖地区の特徴
 - 2) （仮称）藤野テレワークセンターについて
 - 3) 実証実験計画（案）

2. 意見交換における主な内容

【実証実験の参考となる取組について】

- 伊勢市のクリエイターズワーケーションに通ずる取組として、富岡町（福島県）で実施している「プロフェッショナル・イン・スクール（PinS）プロジェクト」を紹介する。PinS プロジェクトは、アーティスト、音楽家、大工等のプロフェッショナルが、富岡小中学校に転校し、校内を仕事場としながら、子どもたちに何も教えることなく自分の仕事をし、その様子を見ている子どもたちがプロフェッショナルの作法や動作を見て学んでいくという取組。大人のワーケーションという面もあるが、それを見ている子どもたちも一緒に成長し、さらに子どもたちと一緒にいる時間から大人の精神的な成長機会につながるという点で面白い。
- 藤野には日本でも珍しいパイプオルガンの製作所があるため、製作の様子を見てもらうことで、学ぶこともあるのではないかと。
- 小菅村（山梨県）は様々な方向で実施している取組の中の 하나가ワーケーションであると認識している。古民家をリノベーションし分散型ホテルとして村全体をホテルにする取組の中でのワーケーションであるため、複層的な立ち位置があると感じている。小菅村の取組は藤野でも参考になる。
- 新庄市（山形県）の「のくらし」は、2階に大型モニターがあり、県内他地方（庄内・置賜）のコワーキング施設と24時間接続している。この施設間の連携が共創につながっている。

【実証実験プログラムについて】

- 藤野の場合、一般的な観光資源は無いため、人を軸にした体験プログラム等、ソフト面の充実に課題があるのではないかと。
- 実証実験は、地域の課題等未完成なものにパートナーとして活用方法を一緒に考えてくれる人を対象としたらよい。藤野の課題である交通については、交通政策の最近の取組である MaaS が IT を活用した取組であるので、実証実験にハッカソンの体験プログラムを組み込み、ターゲットである情報系や IT 系の企業の方が費用を負担してでも行きたいという実証実験になれば、2 回目以降の来訪につながるのではないかと。
- 夏休みは家族連れの参加意欲が高い時期ではあるので、既に藤野で夏場の参加が多い里山体験ツアー等をプログラムに盛り込むとよいのではないかと。
- 実証実験の対象企業について、テレワーク中の時間管理が厳しい企業はなじまないため、業務の成果に対して評価されているクリエイティブや IT 系の企業の方が親和性は高い。実証実験の対象企業としては、クリエイティブや IT 系の企業だけでなく、今後、テレワークを業務の成果で評価する体制に変えていきたいという大丸有（大手町・丸の内・有楽町）の企業も 1、2 社参加できると面白い。
- ワーケーション参加企業と、受入側である地域の課題がマッチしているところで、ターゲットを設定するとよいのではないかと。
- （仮称）藤野テレワークセンターは関係人口の創出を目的としているので、「ふじのワーケーション大学」などという名前ですべて定期的にイベントをつくることのできるコーディネータが見つかるとうれしい。

【実証実験の運営等について】

- 実証実験の参加者に費用負担があると、費用負担した分、訪問先の価値を見つけようとする心理が働くが、費用を全額補填すると、そのような心理が働かないため、2 度目の来訪に結びつかないというリスクが想定される。交通費は補填しないが、体験プログラムの費用は補填する等、制度設計を検討した方がよい。
- 資料 3-2 において、藤野のマイナスポイントに「虫」が挙げられている。冬は問題ないが、実証実験期間中はヤマビル被害が深刻である。予防策（忌避剤）や応急処置（塩をまく）等の対策を講じて、被害を完全に防ぐことは難しい。この点は、藤野が抱える問題であるため検討した方がよい。
- ヤマビルについては、予防策や応急処置の案内や準備はしつつ、虫も含めて自然を楽しめる方を対象とすることが現実的と考える。
- （藤野で運行されているデマンド交通を実証実験で活用できるかという委員の質問に対して、）デマンド交通が実証実験で活用できるかを、現時点で回答することは難しいが、移動手段については、様々な手段を活用した中で効果を把握することが重要であると認識している。市役所内の交通政策部門とも連携していきたい。
- e-bike については、道幅が狭いなど藤野の道路事情に適していないと感じている。数年前に、藤野でツーリングイベントが行われた際に、交通事故が発生した例もあるので留意する必要がある。

- SNS 等で広報とあるが、YouTube を活用した発信は安価かつ効果的であると認識しているので手段として検討してはどうか。
- 空き屋や統廃合された公共施設等の物件があれば、企業の誘致にも結びつく。企業がサテライトオフィス等の拠点を開設すれば、古民家の改修や、地元住民の採用等の波及効果もある。テレワーク拠点をきっかけに、地域に効果を波及させることができれば理想的。
- 実証実験後も企業や個人が藤野と関わりをもってもらうためには、先述の物件情報等、引き続き様々な情報を提供する必要があるため、その仕組みも含めて検討できればと思う。
- 藤野の方はパワーがあり、外部の方を巻き込んで様々な取組を行っている。地元の間では気づけない藤野の良さがあると思われるため、本事業を通じて、これまで気づいていなかった藤野の魅力を発掘していきたい。
- 来年度の実証実験に向けて、スケジュールがタイトであるが、引き続き各委員からの意見を頂きながら進めたいと考えているので協力を賜りたい。

以 上